

子どもから研究者まで、誰もが集まるシンガポールの図書館 ～ 110万人が頻繁に利用する秘密とは ～

シンガポール事務所

1. 世界の変化に対応した知識・情報のアクセス拠点

シンガポール事務所では、この度、シンガポール国立図書館（以下「国立図書館」という。）を視察する機会を得られたため概要を報告します。

国立図書館は、情報通信芸術省（Ministry of Information, Communication and the Arts）の法定機関である国立図書館庁（National Library Board : NLB）により運営されています。1995年に設立され、2005年に現在の地上16階の建物に移転しました。

国立図書館庁では、図書館を「世界の変化のスピードに対応するシンガポール国民のための知識・情報のアクセス拠点」として位置づけ、資源の少ないシンガポールにおいて唯一の国家資源として捉えられている人材育成をひとつの目的としています。

ここでは情報アクセス拠点としての整備を進めるため、レファレンス機能の充実を重要視しており、現在地上1階から16階までの殆どのフロアはレファレンス専用となっています（地下の1フロアのみが一般の貸出フロア）。レファレンスフロアは、主に研究者や学生などが利用しているとのことで、契約により使用できる個室等も完備されていました。

また、一部フロアでは、国家の歴史書や個人等から寄贈された重要書物・文化財等多様な品々が陳列され、これらの保存の役割を担っています。



開放感のあるレファレンスフロア

2. 4つの公用語への対応と“ポケットの中の図書館”

シンガポールでは、現在約520万人の人口を600万人まで増やすことを想定しており、将来は、約20万人ごとに1つの図書館が利用できるよう施設の整備を計画しています。国立図書館庁独自の統計によると、国民の本や図書館に対する関心は向上しており、年間約3,650万人が図書館を訪れ、現在人口の20%以上に相当する約110万人が頻繁に図書館を利用している会員（アクティブメンバー）となっているとのことです。

シンガポールの図書館の特徴としては、当地の公用語としてマレー語、英語、中国語、タミル語（南部インドの言葉）の4つの言語が使用されているため、1冊の本を導入するにあたっては、可能な限り4か国語の本を揃えているといえます。

また近年では、スマートフォンやタブレット端末の普及により、市民の本へのアクセスの方法も変化しており、国立図書館でも“Library in pocket（ポケットの中の図書館）”

をコンセプトに、携帯電話からのショートメール（SMS）で本の予約・検索をしたり、電子書籍（E-Book）の貸し出しをしたりするサービスの充実を図っているとのこと。

<近年のシンガポールの図書館に関する主要計画>

策定年	計画名	主な内容
2000	Road Map Library 2000	インフラの整備・改修、国内全土への普及促進
2010	Library 2010	デジタルインフラの整備
2011	Library for Life	2020年の目指すべき将来像

3. 魅力ある集いの場を目指して —オリジナルプログラムの開発—

国内 24 か所に設置されている地域の図書館（パブリックライブラリー）では、本の貸借だけではなく、様々なアクティビティや展示会、映画や音楽などのパフォーマンスプログラム等が実施されています。ここでは、図書館を“人々が集まり影響し合う場”として位置づけ、子供から高齢者まで誰もが身近に感じてもらえる図書館を目指しており、各図書館では、年齢別のターゲットを定め、世代に応じたアクティビティやオリジナルのプログラムを開発し、図書館へ足を運ぶ人の促進に取り組んでいます。

例えば子供向けには、読書推奨のためのプログラムとして、図書館オリジナルのトレーディングカードを利用したプログラムを開発しました。プログラムに参加し本を読むことで貰えるトレーディングカードには、オリジナルのストーリーが記載されており、カードを集める楽しさとともに、本を読む楽しさを学べる仕組みとなっているとのこと。

また、高齢者向けには、健康やパソコン・スマートフォンなどの情報リテラシーに関するプログラムや、孫と一緒に参加できる読み聞かせのプログラムを充実させるなど工夫し、全プログラム合わせて年間約 1,000 万人もの参加者を集めているとのこと。

4. “図書館ビジネス”の国際展開

最後に、シンガポールならではのユニークかつ戦略的な取組を紹介します。

国立図書館庁では、2000 年に出資法人（Cybrarian Ventures Private Limited : CVPL）を設立しました。CVPL は、国立図書館庁による全額出資の形態をとり、ラベリングの分類方法など図書館運営に関するノウハウや、前述したトレーディングカードを始めとする独自に開発したリーディングプログラムの海外移転、重要書籍等コレクションの有料リースなどを行っています。

すでに、パキスタンなどの中東諸国、中国、東南アジア、北米などで技術移転の実績があり、これまで培ってきたノウハウや経験を生かし、世界各国の図書館にて顧客サービスの向上に貢献しているといいます。

様々な顔を持つシンガポールの図書館に、今後も注目していきたいと思います。

（小宮山所長補佐 東京都派遣）